

追悼 故 関本 至 名誉教授

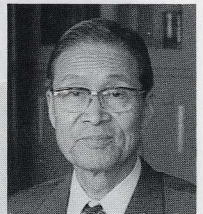
広島大学名誉教授関本至先生は平成五年五月一日午前十一時半、心不全のため、満八十才で逝去された。ここに謹んで哀悼の意を表します。

関本先生は昭和二十七年、創設期の文学部言語学科の助教授として着任され、同三十三年六月に教授に昇任、同三十五年には大学院文学研究科（二年課程）の担当を命ぜられ、三十八年からは同研究科（五年課程）を担当し、主として比較言語学、一般言語学、意味論、品詞論、言語学概論などを講じられ、あわせて古典ギリシア語、ラテン語及びサンスクリット語の演習講読を行われた。御退官までの二十四年間、幾多の俊英を社会に、教育界に送り出され、また多くの勝れた研究者を育成された。

しかし先生が終生強い関心を寄せられた御専門は現代ギリシア語で数多くの高逸な御論考と『現代ギリシア語文法』（泉屋書店、昭和四十三年）を世に問われた。これらはいずれもこの分野における本邦初の貴重な業績として学界でも高く評価されている。先生のギリシアに対する御関心は現代ギリシア文学にも及び、二度にわたるギリシア訪問の知見をも加えて多くの小説を周到な翻訳によって紹介され、同学同門の枠を広げられた。またドラヴィダ諸語に対する御関心も強く、貴重な論考を発表されている。

言語学研究室の充実と発展、地域社会における言語学の質的向上などに尽瘁された関本先生の教えを一層進展させることが、われわれ残された者の責任だと思わします。先生、どうか安らかに眠り下さい。

（文学部言語学講座 吉川 守）



追悼 故 古賀昇一 名誉教授

本学名誉教授古賀昇一先生は、平成五年六月二十二日八十一歳の生涯を閉じられました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

先生は、昭和八年広島高等師範学校を、昭和十九年広島文理科大学を御卒業後、四十有余年の長きにわたり、数学教育学の研究と教育の道を一筋に歩まれました。学内にあつては昭和四十年代の教育学研究科博士課程充実の時期に数学教育学講座の創設と同時に初代教授となられ、教育学部附属中・高等学校長を併任、学外にあつては日本数学教育学会副会長などの要職を歴任され、数学教育学の創設と発展並びに数学教育の振興に御尽力されました。

先生の御専門の数学教育学、殊にフランス数学教育の研究並びにガッテニョー研究は、今日もなお学会で高く評価されており、先生は深奥な学識と温厚篤実な人格をもって、終始一貫、人間として誰にも必要な数学教育とは何かを、理論と実践の両面から探求されました。要職にありながら、先生自ら公開授業の教壇に立たれ、教育現場に研究成果の一端を披露されたことは、今なお忘れ得ぬ想い出です。こうした先生の研究理念と姿勢は、数学教育学の本性と言つても過言ではありません。

先生の御尽力によつて誕生した数学教育学を、ここ東広島の新キャンパスにおいて、大きく育んでいくことが、先生の御恩に報いることであると強く信じております。人としてこよなく人を愛された古賀先生の御冥福を、心よりお祈り申し上げます。

（教育学部数学教育学講座 中原忠男）